

●決算書を確認する大まかな流れ

- ① 損益計算書で、企業の「稼ぐ力」を把握する
- ② ①で確認した内容を基に、貸借対照表で財務状況を確認
- ③ キャッシュフロー計算書で資金繰りの状況を把握



②貸借対照表の確認
損益計算書で全体のフローの推移が把握できたら、貸借対照表の確認に移ります。
まずは純資産をみてみましょう。損益計算書の当期純利益は純資産の利益剰余金に蓄積され財源が確保されたことを意味します。業績が好調で純資産の積み上がっている結果でもありませんので、損益計算書と合わせて確認しておきたい項目です。

逆に自己資本がマイナス（債務超過）の場合には注意が必要です。債務超過とは、他人に返済しなければならぬ資金が資産よりも多い状態を指します。債務超過は一過性の場合もあるので債務超過になったからといって倒産するわけではありませんが、こういう経緯で債務超過になっているのかについては把握する必要があります。
純資産の他には、資産部門の流動資産、固定資産、投資その他の資産、負債部門の流動負債、固定負債についてそれぞれどのような勘定科目が計上されているのかみていきましょう。チェックすべき勘定科目についてはP16～17で詳しく説明します。

資金繰り破綻の懸念がないか
CF計算書で確認

損益計算書により利益が計上されていることが確認でき、貸借対照表により債務超過になっ
ていないことを確認できたら、それで終わりではありません。利益が計上されていても、現金が実際に入金されているとは限らず、損益計算書の利益が見せかけである粉飾決算のようなケースでは、利益が計上されていたにも関わらず、突然の資金繰り破綻による倒産の可能性があります。

③CF計算書の確認

このような資金繰り破綻を未然に察知するためには、資金繰りの状況を把握するためにCF計算書をみていく必要があります。CF計算書の詳細についてはP18～19で解説します。
また、取引先がどんな業種・事業形態であるかを知っておくことで決算書を理解する深みが増します。
例えば、スーパー等の小売業界においては、一般消費者に様々な商品を販売するために一定の在庫を抱えておく必要があるため、貸借対照表には商品勘

取引先の変化はこうして見つける！

受け取った決算書の確認フローと各財務諸表を読み解く着眼点

ここでは、決算書を確認する流れを押さえたうえで、各財務諸表をみるうえでのポイントをサンプルとともに解説します。

高野総合コンサルティング株式会社
公認会計士 雨宮 海

1



決算書はこんな流れで確認しよう

取引先の業界特性を把握したうえで それぞれの財務諸表を関連付けて理解する



決算書を確認する際、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書（以下、CF計算書）についてそれぞれの数字を単独で漠然と眺めているだけでは取引先の変化に気付くことはできません。

企業は利益を上げることが目的にビジネスを展開しています。利益を獲得するには、元手となる財産（ヒトやモノ）が必要であり、儲けた利益は投資に充てられ、稼ぐ力を伸ばしていくことで企業は成長していきます。

そのため、利益情報を示す損益計算書と、利益の元手となる財産状況を示す貸借対照表の関係性を理解することは、企業の

実態および事業の方向性をつかむ大きな手がかりとなります。まさに企業の変化をみつけるために欠かせない着眼点だといえるでしょう。

まずは損益計算書で
企業の「稼ぐ力」を確認

ここでは、受け取った決算書をどのような流れで確認していけばよいか解説していきます。

①損益計算書の確認

まずは1年間でどれだけ儲けたかを示すフロー（一定期間）の成績表である損益計算書を確認しましょう。

1番上に書かれている売上総利益から営業利益、経常利益、税引前当期純利益、税引後当期

純利益が、それぞれの程度利益を計上しているのかを確認します。企業は利益を追求することが使命であり、利益を生み出していかなければ会社存続が危ぶまれるため、企業が現状、どの程度「稼ぐ力」があるのかを把握する必要があります。

どの程度の売上規模でいくら利益を計上しているか、売上原価等の費用はどのくらいかっているかについてみておきましょう。

当期の単年分のみでは企業が堅調に推移しているのか判断できないため、過去の決算書と比較して過去からの推移を把握することが取引先の変化をみつけるカギとなります。

定が計上されています。今後、多店舗展開や取扱アイテムの増加といった戦略をとる場合には、在庫が増加することが予測されます。

一方、サービス業界の場合には、モノである商品を販売するわけではないため、在庫は計上されていないか、あつたとしても少額です。

このように、取引先の業界を理解しつつ、損益計算書、貸借対照表、CF計算書を関連付けて確認することで、企業の経営状況の理解が深まります。

一般的に、経営状況の確認資料としては損益計算書に目が行きがちですが、貸借対照表との関連性を意識して損益情報をみることで、過去実績から企業の投資方針の予測ができるケースも多々あります。損益情報だけの分析だけでなく、貸借対照表とCF計算書にも目を向けてみることで企業実態を把握する幅は一段と広がるでしょう。